

第6回推進会議 議事録	
日 時	2018年12月20日(木) 14:00~16:30
場 所	長門市役所
出席者	<p>【推進会議委員】</p> <p>■大西委員長 ■荒川委員 ■坂倉委員 ■岩田委員 ■大谷委員 ■伊藤委員(代理:原田氏) ■星野委員(代理:石井氏) ■内田委員 □木村委員 ■正司委員</p> <p>【事務局】</p> <p>■田村経済観光部理事</p> <p>【デザイン会議委員】</p> <p>■泉委員 ■益尾委員 ■金光委員 ■片岸委員 ■大谷委員 ■伊藤委員</p>
配布資料	<p>【資料1】温泉旅館「星野リゾート 界 長門」着工のお知らせ</p> <p>【資料2】恩湯等施設整備・運営事業について</p> <p>【資料3】公共空間の整備スケジュール(現時点)</p> <p>【資料4】ランドスケープ計画図面</p> <p>【資料5】湯本エリア内外のサイン計画資料</p> <p>【資料6】社会実験2018 概要報告</p> <p>【資料7】河川空間等の活用方針について</p> <p>【資料8】冬季社会実験概要</p> <p>【資料9】交通社会実験の検証結果とエリア交通計画(案)について</p> <p>【資料10】長門湯本温泉景観形成の実現の方法とスケジュール</p> <p>【資料11】景観協定の締結に向けた取り組み</p> <p>【資料12】公共空間の活用の方向性について</p> <p>【資料13】平成31年度の主要課題(案)</p>
決定・承認事項	<ul style="list-style-type: none"> ・河川空間等の活用方針の継続協議 ・エリア交通計画の方針案の承認 ・暫定地は住民参加型で整備を行う ・駐車場は有料・指定管理の方向で検討を行う。
議事内容	<p>1. 開会</p> <p>■事務局(田村経済観光部理事)より推進会議の開会</p> <p>2. 市長挨拶</p> <p>■大西委員長より開会挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日はお忙しい中、ご出席いただき感謝。 ・前回の推進会議以降、9月中旬におとずれリバーフェスタが開催、またエリア交通計画についても社会実験を実施し、市民の方々、関係者ともそれぞれワークショップ等も開催されるなど、様々な活動が展開している。 ・一方では、星野リゾートさんの『界 長門』も工事がいよいよ始まり、また一部では紅葉の階段も完成し、ライトアップもされ、楽しみも膨らんできていると思っている。 ・本日は社会実験や、合意形成に向けたワークショップの結果を踏まえて、今後の利活用に向けた方針についても報告し、またご議論も頂きたいと思っている。 ・また、市全体で景観計画を策定しているところだが、湯本については先行して重点地域としての位置付けも行っている。いよいよ景観条例として定めるべく、明日12月21日からパブリックコメントを実施する予定としており、景観形成に向けてしっかり取り組む必要がある。 ・景観協定等についても、皆様と共に共通理解のうえで進めていくことができればと思う。 ・本日は民間事業者による事業の進捗状況、公共空間の設計と活用方法、景観形成の取り組み。また来年31年度に向けた課題の整理などについて、推進会議で審議していきたいと思っている。 ・限られた時間だが、推進会議の皆様には積極的意見を賜りたいと思っているので、何卒よろしくお願いを申し上げ、冒頭の挨拶とさせていただきます。

■事務局（田村経済観光部理事）より出席委員の確認と代理出席者の紹介

- ・本日、木村委員はご都合により欠席されている。
- ・また、伊藤委員の代理として湯本温泉旅館協同組合専務理事の原田氏に、星野委員の代理として星野リゾートの石井氏にご出席をいただいている。

3. 報告・審議事項

（1）民間投資促進事業の進捗状況について

大西委員長

- ・民間投資促進事業の進捗状況について、星野リゾートさんと長門湯守さんから報告をお願いします。

■石井氏（星野委員代理）より資料1について説明

■大谷デザイン会議委員より資料2の説明

大西委員長

- ・星野リゾートさんと長門湯守さんから説明があったが、これについては報告のみとする。

（2）公共空間設計及び景観形成の取り組み状況について

①公共空間整備の進捗状況について

大西委員長

- ・続いて、公共空間設計及び景観形成の取組状況について、審議を行う。まず、公共空間整備の進捗状況について事務局とデザイン会議から報告をお願いします。

■田村経済観光部理事より資料3について説明

■金光デザイン会議委員より資料4について説明

大西委員長

- ・ただいま報告があったが、市においても様々な公共事業を行っている。入札がなかなか落ちないような状況もあるが恩湯がオープンする来年11月を目途に、何とか進めていきたいと思っている。
- ・また、一部の道路工事については再来年3月までかかるが、こちらも「界 長門」は3月オープンと聞いているので、それまでには工事を終えたいと思っている。
- ・続いて湯本エリア内外のサイン計画についてデザイン会議から説明をお願いします。

②湯本エリア内外のサイン計画について

■金光デザイン会議委員より資料5について説明

大西委員長

- ・サイン工事については後ほどご意見頂きたいと思うが、まず「長門湯本温泉」という名称とロゴマークの件についてご意見あるか。
- ・異論は無いようなのでこれで進めていく。
- ・エリア内外のサインの整備については、観光コンベンション協会の会長でもある大谷委員、観光客の誘客といった面でご意見あるか。

大谷委員

- ・サインがこのように統一されることは温泉地のイメージもアップして良いと思う。
- ・色彩等もデザイン会議の提案内容で良いと思う。

大西委員長

- ・星野リゾートの石井氏は様々な観光地、温泉地を見られているが、何かご意見はあるか。

石井氏（星野委員代理）

- ・サインはどこに何があるかを示す機能もあるが、写真に撮ってどこに行ったかを残したり、発信したりする機能もあり、星野リゾートでもよくサインの前で写真を撮っている方がいる。
- ・そういう意味では、サインが長門湯本温泉に来たことがない人へ与える影響が大きいいため大事なこ

とだと思う。

- ・そういった意味で、今回サインを新しいデザインにして統一感を持たせようというのは非常に良いことだと思うが、質感のこだわったサインがあると良い。
- ・コストや優先順位の問題もあるので全てとはいかないと思うが、写真に残るのではないかとこの所では、更に質感にこだわったサインがあると良いと思う。
- ・例えば11番のサインについて、長門湯本温泉に来た時に最初に見るサインで、かつ一番大きいサインになるので、経年変化も含めてデザインのあり方をもう少し検討をした方がよい。

大西委員長

- ・今のご意見について、デザイン会議での議論などあるか。

金光デザイン会議委員

- ・具体的な素材の議論は無いが、ヒアリングなどでも意見を頂いているので、先ほどのご意見も踏まえて、デザイン会議で検討したいと思う。

大西委員長

- ・風呂桶の並んだ看板についても、古くなって管理も行き届いていないので撤去したらどうかという話があったが、旅館組合としてご意見はあるか。

原田氏（伊藤委員代理）

- ・現在、向陽小学校の前と、蛍街道の曲がる所の2カ所にあるが確かに色褪せてきている。また道路から少し入り組んだ位置にあるため、何かあるなというくらいの印象のものになっている。目立つものであれば欲しいとも思う。
- ・今の状況では草や木も被っており、あまり役に立っていないのではないかと考えている。

大西委員長

- ・先ほどの石井さんの意見と重なるが、湯本温泉に近づいたということが分かることは必要だと思うので、撤去した代わりのもが必要か不必要かという議論はして欲しい。
- ・サインについては次回にも示されるとのことなので、またお気づきの点があればデザイン会議や成長戦略推進課へ申し出て頂きたい。
- ・またサイン工事については、景観刷新エリア内を優先的に、しっかりと安心して歩いて行けるような、回遊性を高めていくということを重点的に行いたいと思っている。
- ・また国道については県の管理なので、県とも協議しながら決めていきたいと思っている。

内田委員

- ・9ページの看板には「長門湯本温泉」の名称のみが入っているが、マークは使わないのか。

金光デザイン会議委員

- ・標識内の表記にはルールがあり、道路の制限速度によって文字の大きさ等も決められており、スペースも限られているので、ロゴマークを入れることが出来るか検討する。

内田委員

- ・一目でわかるのでマークなので入れられないか検討して欲しい。

③社会実験2018について

大西委員長

- ・社会実験の実施状況及び検証結果についてデザイン会議から報告をお願いします。

社会実験の実施状況及び検証結果について

■泉デザイン会議委員より資料6の説明

大西委員長

- ・エリア交通計画については後ほど説明があった時にご意見頂きたいと思う。
- ・続けて、河川空間等の活用方針について、11月より河川空間の利活用にむけての占用主体となっている長門湯本オソト活用協議会から説明をお願いします。

河川空間等の活用方針について

■伊藤デザイン会議委員より資料7の説明

大西委員長

- ・川床や置き座は長門湯本温泉の特徴的なものであり、河川空間の大きな魅力になると思っている。
- ・県内初の河川区域の準則特区の指定を受けた。山口県の大変ご尽力によったところである。
- ・山口県の正司委員からご意見がありますか？

正司委員

- ・河川区域の利用区域の設定については県内初であり、非常に期待している。
- ・区域指定できたのは、綿密な社会実験によって効果が確認できた所が大きい。
- ・長門湯本オソト活用協議会からの説明があったように、主には4月から11月の活用ということだが、冬の間の検証や1年を通じた活用も念頭に置きつつ色々検討してほしい。
- ・また県内初なので、県としても色々な場面でのPRが出来るように協力したいし、そのための実績も挙げて頂ければと思っている。
- ・説明にもあったように、禁止の羅列にならないようにということが観光で誘客していくにあたり非常に重要な視点であると思う。これが初めから基本方針に入っているのは非常に良いと思っている。

大西委員長

- ・冬季の活用については、委員の皆さんからアイデアやご意見はあるか。

石井氏（星野委員代理）

- ・実用的な活用にこだわらずに、ちょっと映えるように見せる使い方もあるのではないかと思った。
- ・現在 facebook でも川床の魅力的な写真が挙がっている。例えば先ほどの説明のビニールシートで覆って暖を取るといった、冬季に無理して使おうとして景観を損なうくらいなら、景観を優先したほうが良い。
- ・ただし、設置したのにあまりに使われないのはかえって良くないので、家具などは置いて雰囲気づくりに使うというアイデアもあると思う。

泉デザイン会議委員

- ・親水性や季節感を大切にしていくために、今後も議論していく。

大西委員長

- ・温泉街の中心となる河川空間をいかに活用していくかは、今後の温泉街の活性化に非常に重要な要素となる。リバーフェスタでは、多くの方々が川で遊ぶ姿が見られ、理想的な風景が広がっていたと感じた。河川なので安全性には配慮しつつ、河川空間の活用が一層進むよう、デザイン会議で引き続き議論を深めていただきたい。
- ・次に冬季社会実験の概要について、デザイン会議から報告をお願いしたい。

冬季社会実験の概要について

■泉デザイン会議委員より資料8の説明

大西委員長

- ・今年度は2月に予定されているということだが、原田さんからご意見を頂ければと思う。

原田氏（伊藤委員代理）

- ・現在の湯本温泉には夜のそぞろ歩きが無いので、灯りを利用することはとても良いことだと思う。

大西委員長

- ・今年度は2月なので時間が無いが、次年度はぜひこれを見に長門湯本温泉に泊まりに来ようという人が増えるようにお願いしたい。
- ・まだ今年度どの詩でやるかは決まっていないということだが、次年度はまた詩を変えていくような考えか。

泉デザイン会議委員

- ・一度決めたら一つの区間は同じコンセプトでいくことを想定しているので、例えばある橋と橋の間はこの詩で、別の橋と橋の間はこの詩という可能性はある。

坂倉委員

- ・区間というのはどの程度の区間を考えられているか。
- ・イベントの期間がある程度あれば、日常的にそういうのが見られるという状況になるが、あんまり同じものがあるとマンネリ化してくる可能性もある。

泉デザイン会議委員

- ・今回は予算の都合もあるので、あまり大規模では無いが、今後広げる展開も想定しつつ小さく試験的に実施することを考えている。

大西委員長

- ・今年度は2月15、16日ということだが、冬の間は常設的に設置するというのも費用対効果も含めて考えられるのか。

泉デザイン会議委員

- ・今度の整備で電源も設置されるので、一度設置すれば長期間設置しておくことが可能となると思う。
- ・今回はそれに向けてどのくらいの労力がかかるのかや、増水による撤去は不要な設置方法にしないといけませんが、そのためには河川に対しどのくらいの高さに設置するかなどを検証していきたい。
- ・もう少し長期にしていくことも考えられると思う。

石井氏（星野委員代理）

- ・次年度は違う形でとなった場合に、同じものを使ってつくる事が出来るのか。

泉デザイン会議委員

- ・これは同じ形で使い回すイメージである。

石井氏（星野委員代理）

- ・例えば1枚目の写真は葉っぱになっていて、2枚目の写真は鳥になっているが、このように変えることは可能か。

泉デザイン会議委員

- ・変えられない。金属をプレスして1.5m程度のフレームを製作し、それに電球を巻いていくので、保存しておいて毎年同じ形を使っていくことになる。

石井氏（星野委員代理）

- ・継続的な取組でやっていけると良いと思うが、質の高いデザインを徐々に目指して欲しい。
- ・まだ手作り感があるので、これを目的に来てもらえるようなデザイン的な研究もしていきたい。

大西委員長

- ・そういったことを今年度検証していくということだと思う。
- ・次にエリア交通計画の方針案について、デザイン会議から説明をお願いします。

④エリア交通計画の方針案について

■片岸デザイン会議委員より資料9について説明

大西委員長

- ・「歩ける温泉街」への形成ということで、様々な社会実験を行っていただいた。
- ・当初は一方通行ということで住民から意見も随分あった訳だが、2回の社会実験を通じてかなり「歩ける温泉街」へ近づいていると思うし、住民の理解も進んできていると思う。
- ・まちづくり協議会でのワークショップ等でもたいへん厳しい意見もあったと聞いているが、荒川委員からご意見等あればお願いしたい。

荒川委員

- ・まず、まちづくり協議会として社会実験のお礼を申し上げる。
- ・昨年に続き2回目となる温泉街全体での社会実験は、今年も多くのお客様にお越しいただき、今年は特に河川や道路など、公共区間での賑わいが昨年以上に増したと思っている。
- ・交通計画に対する地元の考えとしては、ワークショップを通じて歩ける温泉街を目指すことになっており、デザイン的な道路空間の構成などを社会実験の成果や他県の事例を踏まえて、専門の方々と一緒に昨年から考えてきた。
- ・社会実験では湯本、三ノ瀬、門前の各区にアンケートを配布し、また11月18日にはワークショップを開催し、社会実験の検証結果や報告と意見交換の場を設けて、地元としての意見をまとめた。
- ・住民の方からは様々な意見が出てきた。例えば沿道で生活する方への配慮、緊急時における対応、大型車の通行の問題などの不安の声や、狭窄部分があると車が注意して通る、路上駐車や走行スピードの抑制に効果がある、人中心の道になり人が増えて賑わいが生まれるといった前向きな意見もあった。
- ・検証結果を含め、これからの街はやはりトップ10に向けて、歩いて行ける温泉街を目指して取り組んでいこうという方向でまとまった。
- ・今回エリア交通計画の方針案はこれまで地域の方々と意見交換をしてきたことと、これまで社会実験を踏まえた内容になっていると思う。

大西委員長

- ・その他、どなたかご意見はあるか。
- ・まちづくり協議会の荒川委員からあったように、地元からの同意は頂いているということだが、今後ともデザイン会議も丁寧な説明を続けていただきたいと思っている。
- ・地元の合意も取れているということなので、推進会議としてはこの交通計画については承認ということではよろしいか。

(異議なし。委員承認)

大西委員長

- ・この計画を決定することとして、今後関係機関、警察等々も具体的な協議を進めて参りたいと思う。
- ・次に景観条例の概要について事務局から説明をお願いします。

(3) 景観条例における景観レビュー等の実施スキーム案について

■早川建設部長より資料10の説明。

■益尾デザイン会議委員より資料11の説明

大西委員長

- ・今説明があったように、各自治会長さんと一緒に全戸を回って、ご理解を頂くための活動もしていただいている。前回の推進会議で星野代表から景観協定についてお話があったが、石井さん何かご意見はあるか。

石井氏(星野委員代理)

- ・前回星野から発言させて頂いたコンセプト・目指す姿についてだが、今回の説明はハードに関する

内容なので、活発にご議論頂けたらと思っている。

- ・非自家用広告の禁止というのはどのような趣旨なのか。

益尾デザイン会議委員

- ・自分の敷地での事業以外の、例えば駐車場や他の店舗などの誘導看板が乱立しないようにしたいということ。

石井氏（星野委員代理）

- ・これは、看板の質をしっかりとしたものにするというものか。

益尾デザイン会議委員

- ・自分の敷地の広告以外の設置自体を禁止するという内容になっている。

石井氏（星野委員代理）

- ・例えば地域内に店舗がある人は1か所だけ認めるなど、もう少し柔軟に対応した方が良いのではないか。

益尾デザイン会議委員

- ・原則禁止だが、協議を行い内容的に認められる場合には許可するなど、協議の仕組みの中で運用していくことも考えられる。
- ・営業形態といったソフトに関しても、景観協定の協議の仕組みの運用で、望ましい姿に誘導することを整理していきたい。

内田委員

- ・例えば、黒川温泉では各旅館の案内を共同看板にして設置するなどしている。そうすると同一のコンセプトで景観にもマッチしたものにできる。

益尾デザイン会議委員

- ・サイン計画の中で、丁寧な地図を設置することや共同の看板をつくるということもあると思うので、まち全体のサインシステムとも連動して考えていきたい。

大西委員長

- ・旅館は景観形成上では重要な役割を果たしており、また駐車場の目隠し等も景観上重要である。原田さん、大谷さんは何かご意見等あるか？

大谷委員

- ・湯本が景観のモデル地区になるということで、河川から道路、サイネージ、規制、そこまでやっていただけるということはありがたいことだが、予算が許せば電線の地中化をやっていただければ、より良いと思うので考慮、検討していただけたらありがたい。

大西委員長

- ・いずれそういうことも必要になってくると思っている。
- ・次に公共空間の活用の方角性について事務局よりお願いしたい。

（４）公共空間の活用の方角性について

■田村経済観光部理事より資料12の説明

大西委員長

- ・今2つの提案があった。1つ目は住民参加型の公共空間整備ということで、地元の方々に空いた空き地を活用していこうということ。2つ目は駐車場の運営方針で、有料駐車場にして指定管理でやっていくということ。
- ・まず1点目の住民参加型の公共空間の整備案について、とりわけワークショップ等でまた地元という話が度々出ているわけだが、荒川委員からご意見があればお願いしたい。

荒川委員

- ・地域住民と行政の方と一緒に整備を行うことで、将来のまちへの愛着へつながると思う。
- ・花の種類や整備の方法については、やはり専門家の意見をもとにこれからも進めていったらどうかと思っている。
- ・維持管理についてはトップ10に向けて、魅力のある温泉街を維持していくためには清掃や植栽、剪定などを維持管理することが必要であり重要であることは理解している。
- ・温泉街は観光地でもあり、地域としても出来る限りのおもてなしをしたいと考えて、国道沿いの花壇の管理や河川の清掃などは地元でやっていきたいと思っている。
- ・しかしながら住民、地域においては担い手が不足しており、今回も整備によって管理する範囲はかなり増えてきているため、それに対する不安の声も少しはある。
- ・また、今回の整備は観光地としての魅力を高めるため、通常の整備に比べ景観などに配慮した特別なものであることも理解はしており、自分たちの住む街並みが綺麗になるということは良いことだと私も思っている。
- ・日常の清掃などは我々地域の役割だと思うし、行政と地域との役割分担のもとで魅力のある温泉街として適切に維持管理ができるよう、仕組み作りを考えていきたいと思っている。

大西委員長

- ・前回の会議でもそういった話があったが、市が地元へ丸投げするという事ではない。
- ・お互いの持ち分をどうしていくのかということは、自治会とまちづくり協議会ともしっかり話をしながら進めていきたいと思っており、その辺はご安心を頂きたいと思う。
- ・駐車場についてはどなたかご意見はあるか。

石井氏（星野委員代理）

- ・今回こういった議論が予定されているということで、商業施設と駐車場がある軽井沢のハルニレテラスの駐車場運用についてヒアリングをした。
- ・駐車場事業の基本的な考え方は、出来る限りここに来る人を妨げずに実際にお店とかお風呂のところでお金を落としてもらおうというのが一番、全体最適である。
- ・ただ軽井沢の場合は、課金しないと駐車場に勝手に停めたり、長時間利用したりする人がいて、かえって利用者が使えなくなるという状況になるので、今は土日は1時間300円の料金設定をしている。
- ・今回指定管理にした場合、エリア内の事業者と駐車場の事業者が別の事業者になった時に、異なるモチベーションで運営する可能性があるのではないかと考えていて、そこは少し慎重に考えた方がよいと思っている。
- ・軽井沢ではハルニレテラスを作る前に、村民食堂というレストラン1軒とトンボの湯という外湯があったが、その時は完全に無料での運用にしていた、特に足りなくなることもなかったのをそれをよしとしていたという経緯があり、当初料金設定をするにあたっての考え方としては、一旦設備は導入して何台使ったかは把握するが課金せずに、状況をみながら料金設定していくという方法を取っていたという経緯がある。
- ・そういう意味でいうと、慎重なやり方は何も課金せずにするか、もしくはちょっと駐車場が埋まりだしたという話になれば設備だけ入れて、どれだけの利用台数があったかということを確認した上で、どのぐらいの料金設定にする必要があるのかということを検討するという方法で、私はこういう案をとっても良いのではないかと思います。
- ・元々の所でいうと今回一番大事なのは、「歩ける温泉街」を作ろうという話で、出来る限りエリアの事業環境をよくすることが大事なのかなと思っている。
- ・我々も今回外来のお客様向けにお店をやるということなので施設を計画しているが、そこには色々な議論があり、人を張りつけて商売していく上で、現在の長門湯本温泉の状況で商売をして大丈夫なのだろうかという意見も結構あった。
- ・なので、出来るだけ初めはエリアの環境を良くして、出店してもらいやすいようにして、その上で魅力的になった時に色々な人が来られるので、もし仮に投資を回収するという観点でも魅力的になった上で課金していく方が、結果的には一番良い形になるのではないかと思います。

田村経済観光部理事

- ・まだトップ10になった状況ではなく、1年後もまだそういう状況ではないと考えている。そういった中で本当に駐車場にお金を払ってまで来てくれるお客さまがいるかは判断が難しい。とはいえ、これだけ山口県下でも非常に話題になっている長門湯本温泉というところを、是非見に行ってみようというお客さんももしかしたら来るかもしれず、そういったどちらかに振れるかが分からない状況の中で、駐車場の運営の形態を決めなければならないということは難しさがあると考えている。
- ・一方で、このエリアの公共空間の整備に当市も財政としても非常に大きなお金を投資しており、そこから稼いでそのお金でまた街を回していくという仕組みを構築するために、しっかりと稼げる部分では稼がないといけないというマインドは持っておきたい。
- ・その中で街の方々と一緒になって、この駐車場をいかに適正な料金で運営できるのか。市が直接運営したり、無料にしたりしてしまうとなると、ここまでの投資をしたことに対して、更に市の経費をどんどん支払っていくということになり、それが本当にふさわしいのかどうかについては引き続き議論していきたい。
- ・引き続き、庁内でも、デザイン会議でもしっかりと議論を進めていって、適切な駐車場の運営形態を探っていきたいと考えている。

大西委員長

- ・私も駐車場の運営そのものについては、有料にしても良いのではないかという思いを持っている。
- ・ただ恩湯が650円で、例えばまた300円も駐車場料金がかかるとなると950円になり、なかなか難しいと思うので、エリア内の事業で利用されるものについては何らかの制度を今からしっかり作っていく必要があると思っている。
- ・また指定管理については公募型であるが、周辺施設と一体的な運営が出来ることが望ましいという思いを持っているので、そういう意味では石井さんが懸念をされた部分については、課題もあるが解決方法はあるのではないかと思っている。
- ・その方向で検討をすることについては、是非ご理解を頂きたいと思う。内田委員、何かご意見等あるか。

内田委員

- ・まず1点目、景観条例の件について、この地区でそういう問題があるのかどうか分からないが、今廃屋が増えてきているということがあって、それが例えば表の目につきやすい所にある場合、どう対応していくかという視点が今回抜けていたので、ご検討いただければと思う。
- ・2点目が、特に冬期にどのように集客するのかということにも関わってくるかもしれないが、観光地見ると、例えばその地域の祭りなどを疑似的に示していくというようなことも魅力を増す要因になっている。そういったものを冬期に沢山入れていくというようなことも考えられる。
- ・2点目と関係してくるが、コンセプトについて。どうしてもハード中心の話になってくるので、「これがいい」「あれがいい」と思うが、何年か経った時にいろんなことをやっているうちに何をやっているのかわからなくなってしまう。そのときに訪れたお客さんが受けるイメージがぶれてしまうと良くない、この地域のコンセプトを明確にした上で、イベントや集客の方法等を考えられる方が良く思う。

大西委員長

- ・デザイン会議でも議論していきたいと思う。
- ・その他、岩田委員はご意見あるか。

岩田委員

- ・安心安全がお客様のもてなしの一番基本のところである。
- ・交番などもそうだが、川を中心に地域作りをする上で、川は暴れることもあるので、避難場所なども検討するなど、安心安全の観点もサイン計画等で検討して頂けると良いと思っている。

坂倉委員

- ・おとずれリバーフェスタがあったときに街歩きをしたが、あの時本当に色々な楽しい店がいっぱいあって、本当に今までにない湯本の雰囲気があり、そういうものが良いと思った。
- ・あれは期間限定のフェスタだったが、これからもっと日常的に広めていくというのが湯本が発展し

ていく一番大事なことではないかと思う。その場合、あのような質の高いお店があって、それを回遊していくことによって、いろいろな人との交流といった楽しい雰囲気が出ると思う。

- ・そういう質の高い事業者に湯本に定着して頂くこと、そしてまた湯本にある既存のお店も、それによってレベルアップして共存共栄して進んでいくという風になれば一番良いだろうと思う。
- ・一番問題なのが、そこで収益が上がるかということだろうと思うが、デザイン会議でそういうところも今努力してやっているということなので、その辺りがもっと進んでいけば、将来的な1つの方向になるのではないかと感じた。

大西委員長

- ・リバーフェスタの時だけでなく、一度にあれだけとはいかないが少しずつでも、日常的に旅館に泊まってそぞろ歩きする姿を想像しながら進めている。
- ・そして、少しずつリノベーションも進んで、店を改造したりしたという動きも出ているので、こういった事を続けていくことによって、新たな事業者もまた来られると思う。
- ・また狭窄部では、恒常的に、例えば土・日を中心に金土日ぐらいは出店があれば、それがまた売りものになると思うので、そういったことを実現するためにも様々な社会実験も進めながら行っていきたいと思っている。
- ・最後に来年度の主要課題について、事務局より説明をお願いします。

(5) 平成31年度事業に向けた検討

■田村経済観光部理事より資料13の説明

大西委員長

- ・来年度も引き続きしっかりと、最終年度という思いで取り組んでいきたいと思っている。

総括

大西委員長

- ・本日はエリア交通計画等を、委員の皆様方にお決めいただいた。引き続き、事業者そして住民の方々とも今日出た意見を中心として、しっかりと取り組んでいくので、今後とも引き続きご支援ご協力のほどよろしく願いして、この委員会を閉じたいと思う。